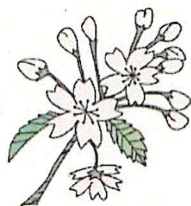


天沼中だより

令和6年3月22日
杉並区立天沼中学校

<http://www.suginamischool.ed.jp/aman>



(令和5年度 修了式講話より 一部抜粋)

「初心 忘るべからず」～ 常に向上心を～

校長 松尾 了

今日は学校の1年間の締めくくりである修了式です。先日の卒業式は、皆さんの素晴らしい心と態度で卒業生を送り出すことができました。皆さん、ありがとうございました。そして、卒業式での皆さんの様子から「いよいよ、進級するんだ!」という、意欲や決意も感じました。ぜひ、この春休みに、その気持ちを行動に移せるように心と体を整えて、始業式、そして1年生を迎える入学式、すなわち、新学年への準備をしてほしいと思います。

さて、準備と言えば、皆さんは「初心 忘るべからず」という言葉を聞いたことはありますか? 「新人の頃 又は 初めの頃の感動や決意といった、純粋な気持ちを忘れず、ひたむきに物事に取り組む」という意味で使われていますが、これは本来の意味ではないようなのです。能楽で有名な世阿弥が書いた本「花鏡」の中にある「初心忘るべからず、この句、三ヶ条の口伝あり」「是非とも初心忘るべからず 時々の初心忘るべからず 老後の初心忘るべからず、この三、よくよく口伝すべし」という言葉が本来の話であるようなのです。

この世阿弥が言っている「初心」とは、初めのころの志という意味ではなく「芸の未熟さ」のことを表しているそうです。つまり、「是非とも初心忘るべからず」の意味は、(能の)修行を始めた頃の芸の未熟さを忘れてはならない。ということです。「時々の初心忘るべからず」は、修行の段階ごとの、それぞれの時期、10代、20代、30代という、その年代での自分の芸の未熟さを忘れてはならない。ということ。「老後の初心忘るべからず」は、年をとってくると自分が熟練者のように思うがそうではない。年をとっても自分が未熟であることを忘れてはならない。未熟な時代の経験、失敗した経験を忘れないように、常に自らを戒め、

である。という意味のようです。

行動の原動力は「気持ち」です。気持ちが健やかであれば、行動が変わります。また、気持ちが乗っていないなくても、とりあえず気力を振り絞って「行動すること」で「気持ちが整う」こともあります。

今日、皆さんに渡される通知表と修了証を見ながら、学習面ばかりでなく、生活面も含めて、この1年間を振り返りながら、「常に自分自身を振り返り、諦めずに、自分を向上させようとする気持ちを持ちつづけるために、チャレンジし続ける、行動できる」そんな、上級生となってくださることを期待しています。



～ 保護者の皆様へ ～

今年度1年間、本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

「春休み」という節目の休みを契機に、ご家庭でもお子さんとこの1年間を振り返っていただき、進級にあたり、来年度への希望や目標について語らっていただけますと幸いです。

今年度は、私としましては「アフターコロナ元年」という印象を受けた1年間でした。そして国内では自然災害、世界情勢を見ますと紛争や経済状況の変化など、社会情勢も大きく変化する中、学校も時代に合わせながら少しずつ変化をしなくてはならない。そんな思いを抱いた1年間でした。

今年度も、皆様から学校へのご協力をいただきましたことに感謝を申し上げますと共に、来年度も保護者、地域の皆様のご理解とご支援をいただけますようお願い申し上げます。結びとさせていただきます。1年間ありがとうございました。

お知らせ

昨年度から教員の異動の発表が早まりましたため、修了式では校長から、本校を去る教職員の紹介をいたしました。詳細は4月第一号の学校だより(4月8日発行予定)をご覧ください。

行事の紹介



● 2月土曜授業

2月の土曜授業では1年生は13歳の主張（発表）、2年生は和楽器の演奏発表、3年生は落語講座を行いました。学習展示発表を校内で行っていることもあり、たくさんの保護者地域の方々に参観いただきました。お忙しい中、ありがとうございます。

放課後には、年間最後のレスキュー防災学習を行いました。講師の守先生からは防災にまつわるクイズを出していただき、縦割り班で解答を考えながら防災に関する知識を深めることができました。

防災学習



作品展示



● スキー移動教室

2年生は3月4日～6日に苗場プリンスでのスキー移動教室に行ってきました。初めての宿泊行事に緊張しながらも、

何をすべきかを考え、先を見て行動する生徒たちに「さすが2年生」と頼もしさを感じました。スキー実習はもちろんですが、レク大会やピュッフェなど楽しさ満開の移動教室となりました。



● ダンス発表会

2月から全校で取り組んでいる体育のダンス授業では専門の講師を呼び、練習に励んできました。総仕上げである創作ダンスの発表会では、すべての学年の生徒が自分たちで考えたダンスの発表を行いました。その中でも特に3年生のダンスは構成力が素晴らしく、見ている人たちも踊っている人たちも楽しめるダンスとなりました。



ダンス発表会より、これまで禁止させていただいていた携帯電話での写真撮影が段階的に可となりました。撮影された画像や動画を SNS 等に使用しないようお願いします。

● ことだま朗読発表会



天沼中学校の伝統的な取組である「ことだま百選」。昨年度から朗読の講師として「お芝居やさん鈴木 KE 企画カンパニー」の方々を呼び、練習を重ねてきました。言葉のもつ意味や表現の豊かさを大切にこの取組では、立候補者による「ことだま朗読」やプロの方々と共に演じた朗読劇「走れメロス」など天沼中学校の特色あふれる発表会となりました。また、会の終わりにはフリーアナウンサーの谷原博子さんから講評をいただきました。

天中 CS コーナー 「いよいよ 活躍の時ですね」

ご進学、おめでとうございます。“コロナ・コロナ”の中で過ごしてきました。その3-4年で“つらい・窮屈な、時には疑心暗鬼になる”経験もしました。ですが、工夫しながらの生活で身につけたことも多かったと思います。友だちとの付き合い方、学校での社会的生活、そんな中での勉強の仕方等々。また、世界の国々での対応の違いにも驚いたのではないのでしょうか。

これからは、皆さん1人ひとりが“自分の判断基準を持ちながら選択的に人生を歩む”ことになるでしょう。少し不安もあるでしょうが、楽しみもあります。友だちや先生、地域の大人との交流、そして本やメディアを通して直接間接的な経験を蓄えていきましょう。そんな、時間と機会が待っています。私たちCSメンバーも応援しています。

第75回卒業式



卒業生 答辞

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる季節となりました。この良き日、私たち105名は、自らの手で夢をつかむその大きな一歩を踏み出すため、この天沼中学校を卒業します。本日は、私たちのために立派な式を挙げていただき、誠にありがとうございます。ご多忙の中、出席くださいましたご来賓の皆さま、校長先生をはじめとする先生方、保護者の皆さま、在校生のみなさん、卒業生一同心より御礼申し上げます。そして今、卒業生を代表してこの場に立たせていただくことを、大変光栄に思います。この三年間は、短かったような、長かったような、一言ではどうも言い表すことのできないほどの充実した日々でした。それこそ、常に「挑戦」の連続でした。コロナという制約のある中での挑戦、自分自身を常にアップデートするがごとく、磨き上げていく挑戦、自分の意志で自分の選択により進路を獲得するための挑戦など、三年間の中で私たちは様々な挑戦をし、たくさんのことを成し遂げてきました。

そのような中で、この三年間はたくさんのことがありました。一年生のフレンドシップスクールは新型コロナウイルスの影響で宿泊ではなく、日帰りでの実施となり、さらに追い打ちをかけるように天候が悪く、雨の中での活動を余儀なくされました。そんな中でも、私たちは存分に楽しむ工夫を凝らし、クラスを超え、学年のみんなと仲良くなることができました。今振り返ると、慣れない初めの中学校生活は、先輩や先生方に支えられていたなと思います。

天沼中での生活にも慣れ、学校の中核を担うようになった二年生。鎌倉の校外学習では、自分たちで決めたテーマのもと、歴史を感じるお寺や神社をめぐり、たくさんの思い出をつくることができました。迫力満点の鎌倉大仏をバックにみんなで記念撮影をしたのが昨日の日のように思い出されます。また、スキー教室では、白銀の神秘的



な世界の中で、友達と一緒にスキーを滑る楽しさを味わいました。スキーを滑った後の筋肉痛は、上達への一步を踏み出しているようで、不思議と嬉しさに溢れた痛さでした。夕食後のカードゲームや先生にまつわるクイズで盛り上がり、たくさん笑ったのも思い出です。

何をするにも「最後の」という三文字が加わるようになった三年生。五月の運動会では、さんさんと輝く太陽の下、全クラスが必死になって一位を目指し、練習に励みました。体育の時間のみならず、昼休みも使って長縄の練習をしたのが印象に残っています。東京では味わえないものをたくさん経験できた修学旅行。「温故知新」のテーマの下、三日間のスケジュールを立て、京都・奈良の文化や歴史、建物に圧倒されました。事前学習で調べていたものの、金閣寺の輝きと、周りの庭園の煌びやかさは、息をのむほど美しかったです。思わぬハプニングが起きて、冷静に対処する力を身につけられたり、集団生活をするうえで大切なことを学ぶことができました。十月の音楽発表会では、ドラマチックな物語がありました。インフルエンザの影響で出席者数が少ない中でも、一人一人が全力で取り組むことで、杉並公会堂に三年間の集大成とも言える、最高の歌声を響かせることができました。私のクラスのC組は、特に出席者数が少なく、もう歌えないのではないかと心が砕けそうなこともありましたが、学年の先生方が加わってくださり、一緒に一つのハーモニーをつくりあげ、それこそ、一生忘れられない、特別な音楽発表会となりました。つい先日行われた学年体育大会やダンス発表会。特にダンスは受験シーズンで、メンバー全員が集まることは難しかったけれど、家で自主練をしたり、友達同士で教えあうなど、合間を縫ってたくさん練習したからこそ、保護者の方にも感動を届けられたのではないかと思います。

私たちがこの三年間、充実した日々を過ごしてこれたのは、周りの人の支えがあってこそだと思います。お父さん、お母さん。夜遅くにクタクタになって帰ってきて、温かいご飯とお風呂を用意してくれてありがとう。近くて応援してくれて、ありがとう。いつ、どんな時でも私たちの味方でいてくれてありがとう。そして何よりも、常に私たちの中にある限りない可能性を信じ、それに向かっていく勇気を与えてくれて、ありがとう。

在校生の皆さん。先ほどは心のこもった祝辞をありがとうございました。委員会や部活など様々な場面で私たちを支え、ついてきてくれました。心から、ありがとう。天沼中の伝統である元気のよい挨拶が飛び交う雰囲気、言霊百選や朗読といった活動を受け継ぎ、まだ見ぬ後輩へと、この伝統をつないでいってくれることでしょう。中学校生活を思い残すことなく全力で過ごしてください。卒業生一同、みなさんのことを応援しています。

そして先生方。3年前、未知なる中学校生活に期待を寄せて入学した私たちはこんなに大きくなりました。あまりにも密度の濃い日々で、振り返ると、様々な困難も今では色鮮やかな思い出となり、先生と友達の笑顔が鮮明に思い出されます。また、行事の際には一緒に熱くなって、汗も、涙も流したのが今でも私の目に浮びます。進路の選択に向けて、思い悩むことがあっても、真摯に向き合い、寄り添ってくれて本当に心強かったです。「限界は、無理して伸ばせ!」と常に言い続けてくれた〇〇先生。温かく大らかな心で私たちを見守ってくれた〇〇先生。明るく元気な笑顔でパワーをくれる〇〇先生。要所要所で一言さらっとエールをくれる〇〇先生。いつもお母さんのような存在感を感じさせ、安心させてくれる〇〇先生。常に勉強し、その姿勢を見せてくれる〇〇先生。本当に、出会えたことに感謝しています。ありがとうございました。

卒業生の皆さん。今日、私たちは中学校生活を終え、また九年間の義務教育を終え、新たな旅立ちの日を迎えます。新たな生活に胸を高鳴らせている人もいるでしょう。新たな環境での生活に不安な気持ちを抱いている人もいるかもしれません。ですが、無事中学校を卒業し、新たな道へと突き進める環境があることに、まず、私たちは感謝しなければいけません。なぜなら、世界には戦争や紛争によって学校に行くことすらままならない、私たちと同じ年の子どもたちがたくさんいるからです。ウクライナでの戦争や、中東での戦争。血で血を洗うといわんばかりの猛攻が止まりません。多くの学校や病院が破壊され、ある子どもは「将来が奪われた」とまで語ります。戦争で狙われ、多くの影響を受けるのは、子供たちも一緒です。精神的にも、肉体的にも、大きな圧力を受け、ただただ、助けを待つのです。この瞬間にも、憎しみの先に憎しみだけが連鎖し、多くの罪のない人々が巻き込まれているのです。そう考えると、毎日「いってらっしゃい」と元気に送り出してくれる家族がいて、学校に行って授業を受け、友達と笑えるこの当たり前のような日々が、どんなに幸せなことなのかが分かります。罪のない命の救いと、残念ながら奪われてしまった命の安らぎを心から祈ります。また、私たちはコロナウイルスの制限がだんだんと緩和されていく中で、中学校生活を送れたことを大変うれしく思っています。以前は、ほとんどの行事が延期・中止となり、卒業式も出席できる人数が限られていました。ですが今では、四年ぶりにお世話になった方々全員に私たちの成長をお見せすることができています。私たちの三年間の成長を、このような形でお見せすることができて、本当に嬉しいです。

卒業生にとってこの二週間は、おそらく私だけではなく、みんなにとっても特別な時間が流れていたことと思います。いつもと変わらない友達との何気ない会話がとても大切に思えたり。いつもは気にしない通学路を噛みしめながら歩いたり。今朝も、卒業式を迎えたいような、迎えたくないような、複雑な気持ちで、通学路を噛みしめ、学校へ来たことと思います。何気ないいつもの日常、ありふれた日常がこんなに素晴らしいものなのか、幸せなことなのかを実感し、愛おしく思える時間でした。何気ない日常が、本当に特別に思えた瞬間でした。どうぞみなさん、いつもの生活を引き続き大切にしてください。

私たちはこれから、それぞれの道を歩んでいくわけですが、この三年間の経験を通じて培った己の力を信じて、そう、一人一人の中にある「限りない可能性」と「創造する力」を携えて、着実に一步一步突き進んでいきたいと思えます。この新たなスタートが私たち一人一人にとって、将来への確かな一歩となることを信じています。

最後になりましたが、今までお世話になった全ての方々に感謝するとともに、天沼中学校の更なる発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和六年 三月十九日 卒業生代表

- 1、2年生の保護者の皆さま、杉並区の緊急メール「すぐメール」は3月までで利用終了となります。今後は「teturu」を使用して、杉並区や学校からの連絡を行います。また、出欠席の連絡については、今後も「Microsoft Forms」を使用していきますのでご注意ください。
- 生徒の皆さんに、「夏休み海外留学」「広島平和学習」の募集を配布しました。応募用紙は4月11日提出です。
- 1年間、学校だよりをお読みいただきありがとうございました。